

2018年11月14日

静岡県JAハイナンさつまいも「ネバリン」施用試験報告書

日本肥糧株式会社

1. 試験目的;JAハイナン白羽支店管内の切り干しイモ用さつまいも栽培におけるネバリンの施用効果について検討を行う。
 - 1)JA担当者:JAハイナン白羽支店M様
 - 2)生産者:S様
 - 3)さつまいも品種:「紅はるか」
 - 4)基肥;5月上旬に完熟堆肥(牛糞系)2t程度/10a、慣行配合肥料(N5kg)
 - 5)土壌;シルトを含む砂質土壌
 - 6)前作;芋⇒芋
 - 7)試験概要;
10aの圃場を半分に分けて道路から見て左側試験区(ネバリン施用区)、右側慣行区(無施用区)を設定し、試験区にはネバリンを40kg/5a(80kg/10a相当)を施用した。
5月20日に定植し、11月7日に収穫調査を行った。慣行区、試験区の中央から4、5畝目で各5株計10株を掘り上げてイモの個数と重量を測定した。
2. 収穫調査結果
11月7日の圃場の状態を写真に示す。



写真1. 試験区(ネバリン施用)



写真2. 慣行区

掘り上げたイモを慣行区、試験区に分けて個体重量を測定後、並べて比較した。



写真3. S様「紅はるか」収穫物(10株当たり)左試験区、右慣行区

【収穫調査の概要】

慣行区、試験区の各10株を掘り上げた結果、慣行区が76個19.46kg(指数100)に対して試験区が69個23.30kg(指数120)で試験区の収量が2割上回っており、統計処理を行った結果では5%レベルで有意差有があった。また、切り干しイモには規格はないが、大きさ別の個体数を見るためにグラフ化した(図1)。

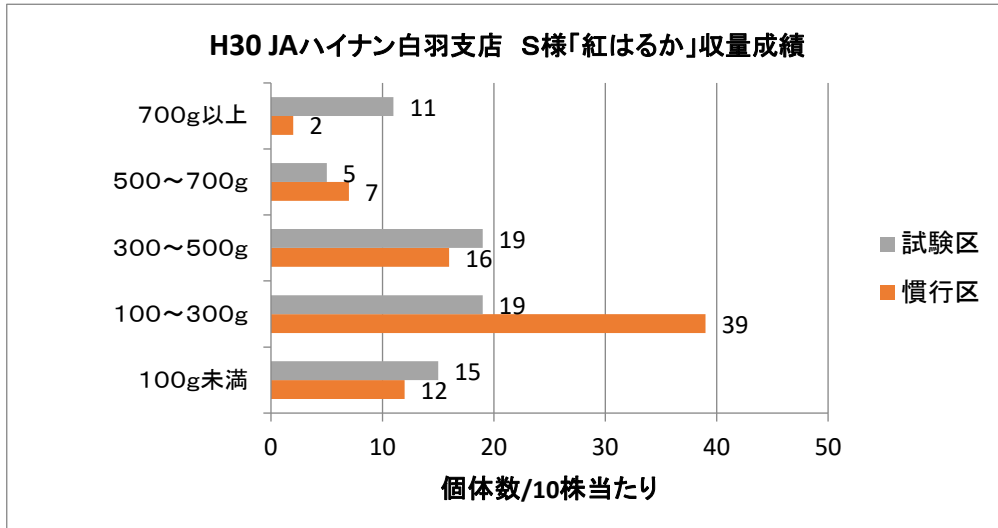


図1. S様「紅はるか」収穫物(10株当たり)収量成績

慣行区の平均重量が256g、試験区が338gで有意な差が見られました。試験区(ネバリン施用)では、100~300gの芋数が少なくなり、300g以上の肥大した芋が増えて、収量は2割増加しました。

以上